

第4次長期経営計画 志學館学園未来計画 2022-2027

人を社会へ結ぶ。
今を未来へ結ぶ。



志學館大学大学院
志學館大学
鹿児島女子短期大学
志學館高等部
志學館中等部
鹿児島女子短期大学附属 かもめ幼稚園
鹿児島女子短期大学附属 なでしこ幼稚園
鹿児島女子短期大学附属 すみれ幼稚園
なでしこ保育園

学校法人 志學館学園

はじめに

平成末期から令和にかけて、日本の教育制度は多くの改革が行われてきました。平成24年、幼稚園と保育所の機能を併せ持つといわれる「認定こども園」の新制度が成立しました。平成28年、小中一貫校の制度が成立しました。平成29年、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関として、専門職大学、専門職短期大学を設置する制度が成立しました。令和2年、私立学校法が改正され、学校運営の一部変更並びに長期計画の策定と情報公開の義務付けが行われました。令和3年度可決、令和4年度施行の改正国立大学法人法には学長選考の権限強化や国立大学法人の統合などが盛り込まれ、その流れは私立学校法にも波及する可能性があります。さらに、高大接続とよばれる高等学校と大学の教育のあり方全体を見直す一環として、センター試験が大学入学共通テストとなりましたが、テスト内容も含め、高大における教育内容の見直しは、今なお進行中です。

また、関連して教育に対する環境の見直しも進んでおり、令和元年より大学等への修学支援制度が始まり、所得と学習意欲によって学費や生活費が支給されるようになりました。同年幼児教育無償化が始まり、所得によって保育料等が免除されるようになりました。高等学校就学支援についても令和3年度から拡充されました。

このように、ここ10年で教育制度は全教育課程を通じて大きく変動しようとしています。今後はこれらの制度改革があっても生き残り、かつ地域社会に貢献できるような、魅力ある学校法人へと進化していかなくてはなりません。我々は、この情勢を前向きにとらえつつも、自らの役割を確固たるものとして発信し、本学園の建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」の具現化を目指してまいります。

多様化した社会の中で輝く個性の育成

近年学校制度改革が多く行われてきた根底にあるのは、社会のグローバル化・多様化・複雑化が進み、教育制度にもそれらを反映しなければならなくなってきた背景があるからと考えられます。しかしながら、前述した国立大学の統合などにおいては、むしろひとつの大学に多様な学部、多様な科目を整備するという方針が、個々の学問においては画一化を進めるかのような制度になってしまうおそれがあります。本来であれば、取得できる学位や資格が同一のものであっても、卒業した学校によって異なる個性が磨かれ、異なる付加価値を持つ人材が輩出され、それら輝く人材たちが共存する社会であってこそ、真の多様化が受け入れられた社会というべきではないでしょうか。本学園においては、多様性を認めそれを受け入れながらも、各校の独自性を発揮し、常に各校の教育理念や教育目的を確認しながら、それぞれの教育課程を構築し、輝く個性を持った人材を育成していくことを目指します。

質保証の先にある存在感をもった高等教育機関へ

大学・短期大学にあっては、認証評価をはじめとする外部からの評価が求められ、それに対応し続けてきました。しかしこれらは、あくまで全ての高等教育機関に求められているものであり、真に多様化社会に対応し、地域社会に貢献できるようにするためには、その先を見据えた付加価値を確立し、内外に示していかなくてはなりません。志学館大学・鹿児島女子短期大学においては、既に質保証の観点から、学位授与の方針あるいは学習成果といったものが可視化され、またそれらを検証する体制も整えられています。ですが、今後はこれらが教育面においても運営面においても、社会的評価に連動したものとなるようさらに整備し、存在感を示してまいります。

また、当面は海外への出入りは制限される期間が続くことが予想されますが、一方で学問にせよ技術にせよ、これまでと異なる形ではあっても、グローバル化は進んでいくことは間違いありません。新たな世界情勢においても戸惑うことなく順応できる人材を育成していくために必要な、人的・物的資源の確保に努めてまいります。

新たな時代における地方中高一貫教育の確立

高等学校教育においては、平成31年度の中央教育審議会諮問の「新しい初等中等教育の在り方について」の答申において、スクール・ミッションやポリシーの再定義等、大学の政策に似た流れの提言が行われ、また普通科教育の改革についても取りざたされています。また、就学支援制度の導入は、生徒たちの進路選択の幅を広げることとなりました。これらの変化は、既存の地方中高一貫教育の在り方にも影響を及ぼすと考えられます。多様な学習形態が提示される社会において、あらためて地方中高一貫教育の存在意義を見直し、その魅力を発信していかなくてはなりません。こういった現状とニーズを把握し、現代社会において、教育理念にある確かな学力、豊かな人間性、たくましい行動力を身につけた心身ともに健やかな人間の育成とはどうあるべきか、常に検証していかなくてはなりません。志学館高等部・中等部においては、組織形態自体は変わることがなくとも、教育課程については常に最新の情報を把握し、反映してまいります。

保育と人材確保を両立できる環境の整備

認定こども園制度が浸透した現在、多くの幼稚園・保育園は人材不足の問題を抱えています。制度上多くの人材が必要とされる一方で、少子高齢化に伴って幼稚園教諭・保育士のなり手が減少しているのが現状です。鹿児島女子短期大学附属かもめ幼稚園・なでしこ幼稚園・すみれ幼稚園、また学園の付帯事業であるなでしこ保育園においても、保育内容の充実と、人材確保の両立を果たさなければなりません。本学園の幼稚園・保育園は、園児の個性を伸ばし、豊かな心を育て、社会性を身につけさせる保育を行ってきました。今後は鹿児島女子短期大学とも連携しながら、現代社会における保育の在り方を模索するとともに、それを担える継続した教職員の資質向上も図ってまいります。

社会情勢に合わせた施設設備の充実

令和2年以降、社会を取り巻く環境は大きな変化をもたらしました。都市部の学校においては、一部リモート授業の定着も図られる一方で、これまで推進されてきたアクティブラーニングをはじめ、対面・少人数を前提として検討されてきたさまざまな手法について、転換を余儀なくされています。施設設備計画については、過去3回の中長期計画策定においては別立てとし、各設置校と長期的な予算のもとに策定してまいりましたが、今後はICTの充実など、ハード面のみならずソフト面においてもさまざまな配慮が必要となります。2022年度からは、長期計画に施設設備計画も組み込むとともに、単に施設の建設や修繕のみならず、新たな社会情勢に合わせた教育の充実のためにはどのようなものが必要であるかを検証し、計画に組み込んでまいります。

むすびに

学園の建学の精神は、平成11年までは「時代に即応した実際に役立つ婦人の育成」でした。これは明治から大正時代の女学校の在り方として良妻賢母の育成が求められる時代にあって、それに合致させつつも女子に必要な実業教育、職業的な知能の啓発といった特色を加えたものだといわれており、創設者満田ユイ先生、そして後継者である志賀フヂ先生の思いが感じられるものです。男女共学化にあたって「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」に変更されましたが、この時も当時の理事長志賀達一先生をはじめとする多くの方々との協議を経て、その時代に必要な人間像の在り方と、学園の伝統を短い言葉に詰め込んだといえます。また、満田先生のみおしえ「雪の如く清らかに月の如く明らけく花の如く撫子の強く優しく」は、時代の変遷とともに、その女性的な文体表現にかかわらず、人間としての在り方、人の美しい生き方を表すものとして学園に継承されています。このように、我々が掲げる理念や方針は、ただ言葉として設定するだけでなく、それを具現化するために何をすればいいのか、その時代その時代の関係者たちが考え、理解し、実践してこそ初めて意味を持つものとなります。この激動の時代において、これらの言葉が陳腐なものとならないよう、関係者一人ひとりがこの言葉を自分なりに解釈し、行動に移していくことこそが、学園全体の発展につながるのではないのでしょうか。この多様な価値観が混在する社会においても個性輝く人材を育成し、社会に貢献できるような特色ある学園となれるよう、一丸となって取り組んでまいります。

計画策定にあたって

2027年に創立120周年を迎える志學館学園は、2022年から2027年の6年間を視野に入れた第4次長期経営計画『志學館未来計画 2022-2027』を策定いたしました。

この第4次長期経営計画『志學館未来計画 2022-2027』は、第3次長期経営計画『志學館未来計画 2016-2021』との連続性・継続性を考慮したうえで、時代の変化に柔軟な対応が出来かつ将来生き残るためにはどうすべきかを基本に策定いたしました。

当然ではありますが、経営計画は作成することが目的ではなく、将来に向けた活動の指針です。すでに、本学園では2027年の創立120周年の姿を予想し、そこに至るまでのそれぞれの時代における学園全体及び各設置校のスローガンと長期ビジョンを掲げ、その実現に向けた施策（アクションプラン）を策定し実行しております。

しかしながら、経営を巡る不祥事、18歳人口の減少、新型コロナウイルスの流行、高等学校・大学等への修学支援制度の開始、幼児教育無償化、働き方改革、ICT対応など、教育機関を取り巻く環境は大きく変化しており、従来の考え方では5、6年後は乗り越えられない状況にあります。

このような環境のなか、学生・生徒・園児の個性を光らせるために、各設置校が策定した施策（アクションプラン）を実行し達成することで志學館学園の更なる発展を目指してまいります。

I 建学の精神

「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」

- ◆「時代に即応した」とは... 情勢の変化に対応して、合理的で効果的、かつ弾力的な運用を図るべきことを意味する
- ◆「堅実にして」とは... 人間としての教養・徳をつけること、つまり人間としての豊かさ等を意味していると解釈する
- ◆「有為な人間」とは... 豊かな人間性の上に、健康な体、強い意志、創造力と企画力、集団への適応と貢献の能力、科学や情報に対する理解と技術、国際人としての教養等を身につけ、国家・社会の発展に寄与しうる人間、即ち「実用」と「教養」を実現できる総合力を身につけた人間をさすものである

II ミッション（使命）

「よりよき社会の創造を担う人材の育成」

志學館学園は、学校教育のあり方において社会全体を通じた課題と現状を直視し、国家・社会の発展に寄与しうる人間を育成することを使命とする。これは「建学の精神」の実現そのものであり、また、現在の日本社会において教育界に求められている課題でもある。

社会の創造を担う自立性・社会性を持った人材を育成し輩出することで、よりよき社会に貢献しうる学園を目指す。

III 計画策定の背景

◆ 求められる学校法人経営の健全化

昨今、学校経営を巡る不祥事が相次ぎガバナンス強化が注目されている。

また、18歳人口の減少には歯止めがかからず、学校法人経営の難しさが増している。

コロナウイルスの影響で働く環境は一変した。学園内の生徒・教職員の安全性を確保しつつ、雇用形態や人員配置などを柔軟に対応できるよう改善し、働き方改革を推進していく必要がある。

これからも教育機関としての魅力をなお一層向上させ、経営の安定化を図らなければならない。

◆ 社会のグローバル化・多様化・複雑化

グローバル化が進む現在、日本国内で働く外国人や海外で暮らす日本人の増加に伴い、子供たちの多様化（特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒の増加等）・複雑化が進んでいる。

子供の成長やつまづき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かな指導・支援が求められている。

◆ 教育行政の変化への対応

ICTの活用環境と少人数によるきめ細かな指導体制の整備、学校施設の整備等による新しい時代の学びを支える学校教育の環境整備が必要となっている。

学校教育の質の向上に向けたICTの活用、ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上、ICT環境整備の在り方を検討していく必要がある。

◆ 鹿児島県の少子高齢化・過疎化

少子高齢化・過疎化が急速に進行する中、地域づくりの担い手の減少や地域の活力の衰退が予想される。

その中では、地域社会の課題を自分自身のものとして捉え、積極的に行動することが求められている。

また、鹿児島県は地域全体で子供たちを育てるといった伝統的な地域の教育力が残っている。その教育を大事にする伝統や風土を未来へ繋いでいく必要がある。

IV 計画策定の目的

◆ 学校経営の健全化を堅持し経営基盤の強化を図る

学校経営を巡る不祥事が相次ぎ学校経営の健全化が求められている。本学園は健全経営を堅持し、18歳人口減少の中、地域に誇りを持てる教育を推進し、安定した収入確保と不要な支出の削減に努める。

◆ 建学の精神に基づき、教育制度の変動に対応しながら教育課程を構築し

人的・物的資源の確保に努める

教育制度はここ10年で大きく変動している。各校の独自性を発揮し、教育理念や教育目的を確認しながら、教育課程を構築し、本学園の建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」の具現化を目指す。

◆ 個性輝く人材を育成し、社会貢献できる特色のある学園となる

多様な価値観が混在する社会においても、個性輝く人材を育成し、教育・研究活動を継続しながら社会に貢献し続ける学園となる。

V 第4次計経営計画タイトル

志學館未来計画 2022-2027

VI 学園スローガン

人を社会へ結ぶ。今を未来へ結ぶ。

VII 計画推進の基本方針

学園本部及び各設置校においては、『志學館未来計画 2022-2027』の基本計画(戦略領域)⇒取組戦略(行動目標)⇒具体的な取組み内容(KPI)を取り入れ、6か年の施策(アクションプラン)を策定する。

「単年度事業計画」は前年度終了時にPDCAにより施策(アクションプラン)の方向性を継続しつつ、次年度「単年度事業計画」を策定する。

「単年度事業計画」の策定は、予算編成作業と同一のスケジュール(前年12月から1月)で行い、前年度3月の理事会・評議員会の承認を受けることとする。

なお、当計画は2022年から2027年の6年間を1区切りにしてあるが、社会状況、国の施策、ステークホルダー等の変化、本学園の経営状況を鑑み、適宜見直しを行い、次年度の「単年度事業計画」を策定することとする。

【スローガン】 「責任ある大学 信頼される大学」

【長期ビジョン】

以下に掲げる上位目標を実現できる大学となる。

- 1 DPに沿った組織的・体系的な教育と地域に根差した研究
- 2 学修・進路・進路に関する包括的な組織運営
- 3 法令等を遵守した誠実で効率的な組織運営
- 4 APに沿った確実な入試の実施と学生定員管理
- 5 地域社会と共に歩む大学

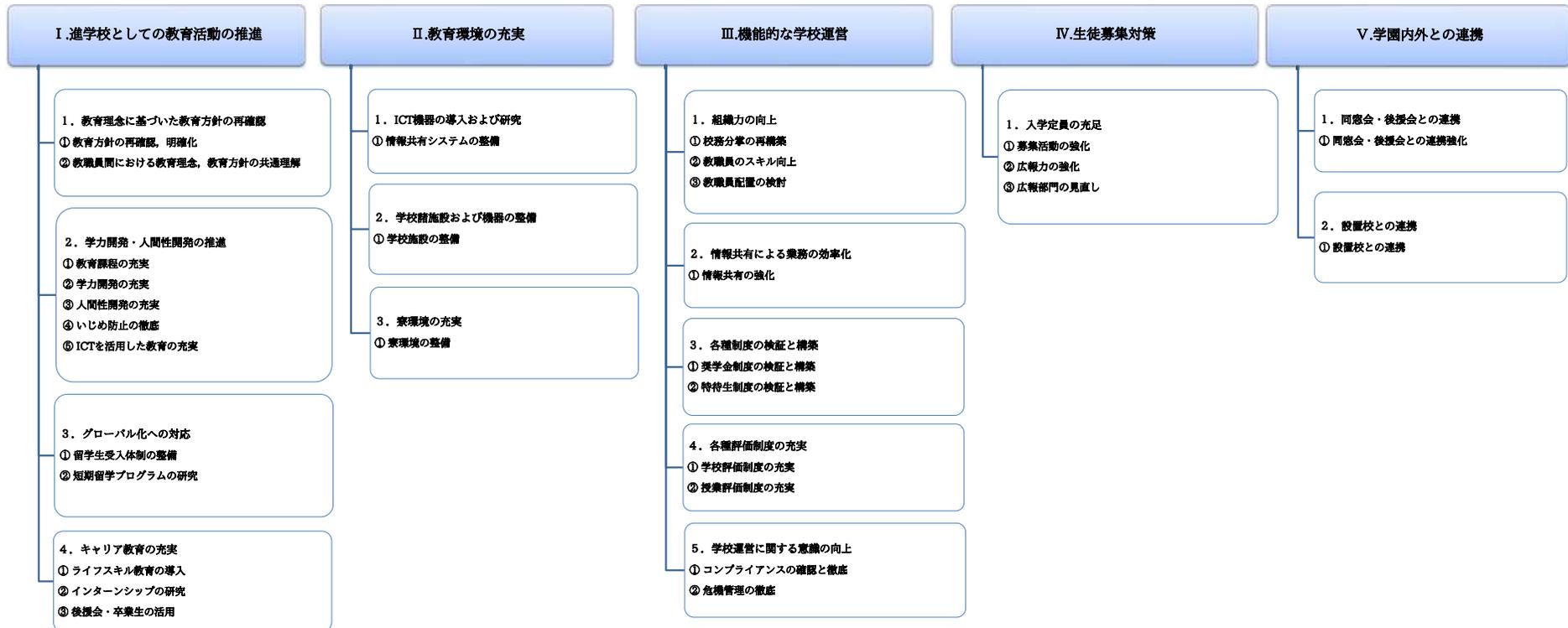


1. 建学の精神・教育目標に基づき、3つのポリシーを遵守し、アセスメント・ポリシーを活用しつつ、PDCAサイクルを確立させる。
2. 多様な社会環境に対応しつつも、鹿児島女子短期大学独自の個性と特色を確立させる。
3. 教職員一人ひとりが自身の職務を理解し、まっとうできるような、当事者意識をもった人材を育成する。



【スローガン】 日本を代表する社会を担うリーダーを育成できる男女共学中高一貫進学校

【長期ビジョン】 『たしかな学力・ゆたかな人間性・たくましい行動力』という理念のもと、男女共学の中高一貫の進学校として、個性の伸張を図るとともに、学力開発と人間性開発を推進し、社会に広く共感と支持を得られる学校となる



【スローガン】 いきいき にこにこ のびのび かもめっ子

【長期ビジョン】 長い歴史と伝統を基に、未来を啓く園児一人一人の豊かな個性を育み、保護者・地域から愛される幼稚園の創造

I.幼稚園教育

- 1. 幼稚園教育の充実
 - ① 日々の教育の充実
 - ② 特別に支援を必要とする園児への支援の充実
 - ③ 就学を意識した教育の充実
 - ④ 特色ある教育の充実

II.制度・設備

- 1. 制度等の充実・改善
 - ① 預かり保育・一時預かりの充実
 - ② 後援会・クラス役員の活動内容の精査
- 2. 施設設備の充実
 - ① 教育環境の充実
 - ② 管理運営環境の充実
 - ③ ICT環境の充実
 - ④ バス運行内容の精査

III.管理運営

- 1. 労務環境の充実
 - ① 人材の安定確保
 - ② 業務内容の精査
 - ③ 研修制度の充実

IV.園児募集

- 1. 広報の充実
 - ① 園児募集活動の強化
 - ② 「幼稚園教育の良さ」の広報
 - ③ 新たな広報戦略の検討

V.学園内外との連携

- 1. 社会連携
 - ① 子育て支援の充実
 - ② 地域社会との連携
 - ③ 卒園児との連携
- 2. 設置校・姉妹園との連携
 - ① 三園合同の取組事項の精査
 - ② 設置校との連携強化

【スローガン】 楽しいこといっぱい 笑顔いっぱい なでしこ幼稚園

【長期ビジョン】 森のある園庭や快適な園舎で、さまざまな遊びを通して園児の笑顔が輝き心と体を育む幼稚園となる

I. 幼稚園教育

- 1. 幼稚園教育の充実
 - ① 日々の教育の充実
 - ② 特別に支援を必要とする園児への支援の充実
 - ③ 就学を意識した教育の充実
 - ④ 特色ある教育の充実

II. 制度・設備

- 1. 制度等の充実・改善
 - ① 預かり保育・一時預かりの充実
 - ② 後援会・クラス役員の活動内容の精査

- 2. 施設設備の充実
 - ① 教育環境の充実
 - ② 管理運営環境の充実
 - ③ ICT環境の充実
 - ④ バス運行内容の精査

III. 管理運営

- 1. 労務環境の充実
 - ① 人材の安定確保
 - ② 業務内容の精査
 - ③ 研修制度の充実

IV. 園児募集

- 1. 広報の充実
 - ① 園児募集活動の強化
 - ② 「幼稚園教育の良さ」の広報
 - ③ 新たな広報戦略の検討

V. 学園内外との連携

- 1. 社会連携
 - ① 子育て支援の充実
 - ② 地域社会との連携
 - ③ 卒園児との連携

- 2. 設置校・姉妹園との連携
 - ① 三園合同の取組事項の精査
 - ② 設置校との連携強化

【スローガン】 喜んで登園 楽しく遊び 満足して降園

【長期ビジョン】 四季折々の自然環境のなかで、園児のつばやきを活かした幼稚園教育を推進し、学びの芽生えを育む幼稚園となる

I. 幼稚園教育

- 1. 幼稚園教育の充実
 - ① 日々の教育の充実
 - ② 特別に支援を必要とする園児への支援の充実
 - ③ 就学を意識した教育の充実
 - ④ 特色ある教育の充実

II. 制度・設備

- 1. 制度等の充実・改善
 - ① 預かり保育・一時預かりの充実
 - ② 後援会・クラス役員の活動内容の精査

- 2. 施設設備の充実
 - ① 教育環境の充実
 - ② 管理運営環境の充実
 - ③ ICT環境の充実
 - ④ バス運行内容の精査

III. 管理運営

- 1. 労務環境の充実
 - ① 人材の安定確保
 - ① 業務内容の精査
 - ② 研修制度の充実

IV. 園児募集

- 1. 広報の充実
 - ① 園児募集活動の強化
 - ② 「幼稚園教育の良さ」の広報
 - ③ 新たな広報戦略の検討

V. 学園内外との連携

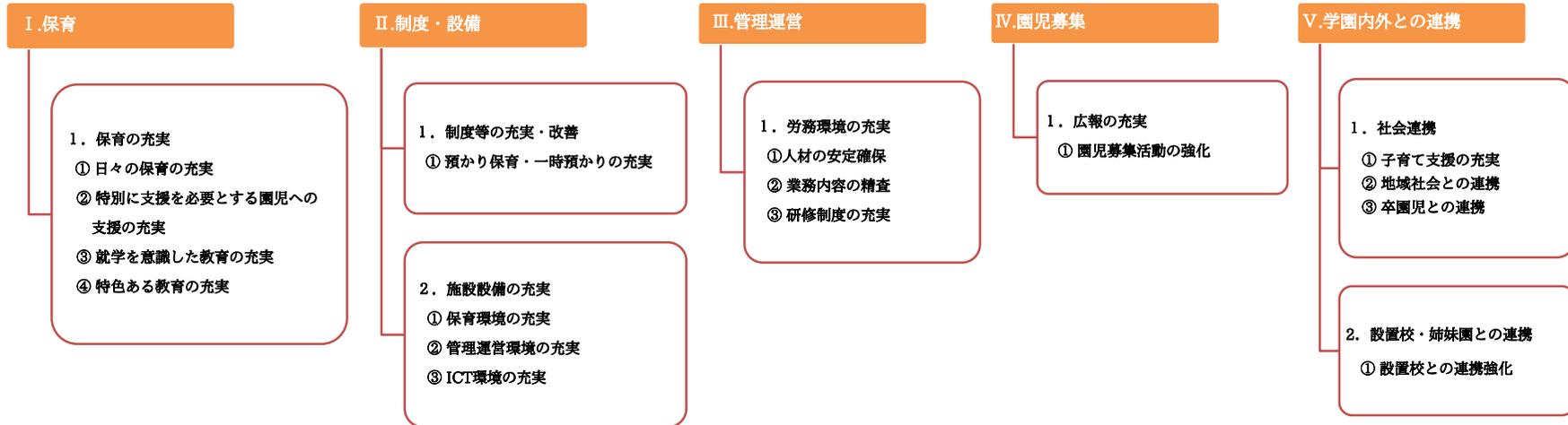
- 1. 社会連携
 - ① 子育て支援の充実
 - ② 地域社会との連携
 - ③ 卒園児との連携

- 2. 設置校・姉妹園との連携
 - ① 三園合同の取組事項の精査
 - ② 設置校との連携強化

なでしこ保育園

【スローガン】 笑顔輝く なでしこ保育園

【長期ビジョン】 ひとり一人の豊かな感性を大切にし、主体性・創造性・協調性を育み、保護者や地域に信頼される生き生きと笑顔あふれる保育園となる。



【スローガン】 健全経営を堅持し、信頼される学校法人。

【長期ビジョン】 学校経営の健全化を図る管理運営体制を堅持し、組織の強化と収益力の持続に取り組み、学校法人の価値向上を目指す。

I. 「経営力」の向上

1. 健全経営を行うための管理運営体制の強化

- ① 健全な法人運営プロセスの強化
- ② 相互チェック機能体制の強化
- ③ 私立学校ガバナンス改革への対応

2. コンプライアンスの徹底とリスク管理・危機管理体制の強化

- ① コンプライアンスの周知と徹底
- ② リスク管理・危機管理体制の強化

3. 定量的目標に基づく財政基盤の維持・向上

- ① 事業活動収支計画の策定と実行
- ② 適確な予算編成と厳格な予算執行
- ③ 教育活動収入価格設定の検証と時宜改訂
- ④ 外部資金増加策の推進

II. 「組織力」の強化

1. 働き方改革への取り組み

- ① 働き方に相応する労働時間制度の導入
- ② リモートワーク環境の整備
- ③ 各種休暇取得の推進
- ④ 健康相談体制の充実

2. 働きがいのある人事制度・人材育成への取り組み

- ① 事務職員の人事制度の設計と運用
- ② 雇用制度・形態の整備
- ③ 事務職員の研修制度の充実
- ④ 幼稚園・保育園教育職員の処遇改善の設計と運用

3. 事務組織体制の強化

- ① 経営戦略に即した事務組織の編成

4. 連携力の構築

- ① 本部・設置校間の連携強化

III. 「革新力」の創出

1. ICT環境整備による業務改革

- ① ICT環境の構築による事務処理の合理化
- ② DXの推進

2. 本部コンサルティング機能の充実

- ① 適正人員の配置
- ② 募集戦略の活性化
- ③ 広報体制の強化
- ④ 教育施設設備の充実
- ⑤ 多文化共生社会への対応
- ⑥ 学園の将来構想の検討

3. 新規事業による収益事業の創出

- ① 新たな事業の創出

